防火・自衛消防の発展推進に半世紀
さらなる未来へ

小山市防火管理協会

目　　次

あいさつ…… 小山市防火管理協会 会長　鈴　木　隆　作 …… 1

祝　　辞…… 小山市長　浅　野　正　富 …… 5
祝　　辞…… 野木町長　真　瀬　宏　子 …… 6
祝　　辞…… 小山地区危険物保安協会 会長　田　中　正　和 …… 7
祝　　辞…… 小山市消防本部 消防長　諏　訪　良　作 …… 8

協会設立50周年によせて …… ㈱UACJ押出加工小山 総務室長　今　村　隆　喜 …… 11
協会設立50周年によせて ……昭和電工㈱ 小山事業所 総務部長　小　寺　普　次 …… 12
協会設立50周年に思う …… ㈱田中屋 代表取締役　坂　本　裕　則 …… 13
協会設立50周年を祝して ……㈱オリジン 間々田工場 工場長　大　森　和　義 …… 14
協会設立50周年を祝して ……東京鐵鋼㈱ 本社工場 本社工場長　中　山　義　則 …… 15
協会設立50周年に寄せて ……㈱東光高岳 小山事業所 事業所長　齋　藤　雅　則 …… 16
協会設立50周年によせて ……文化シヤッター㈱ 小山工場 工場長　蓮　見　幸　夫 …… 17
協会設立50周年によせて ……㈱小松製作所 小山工場 総務部長　石　田　　修 …… 18
協会設立50周年によせて ……富士通㈱ 小山工場 工場長　市　川　裕　一 …… 19
協会設立50周年によせて ……栄研化学㈱ 野木事業所 事業所長　古　橋　弘　康 …… 20
小山市防火管理協会 設立50周年によせて　……ゼブラ㈱ 野木工場 管理部　吉　田　　孝 …… 21
協会設立50周年を祝して ……東京鋼鐵㈱ 本社・小山工場 安全防災課　大　屋　健　治 …… 22
協会設立50周年を祝して …古河産機システムズ㈱ 小山工場 常務取締役生産本部長　田　村　　直 …… 23
小山市防火管理協会設立50周年を記念して ……レンゴー㈱ 小山工場 工場長　樽　海　　満 …… 24
小山市防火管理協会設立50周年を迎えて ……アルテミラ㈱ 小山工場 工場長　山　口　建　次 …… 25
協会設立50周年によせて ……関東自動車㈱ 県南営業所 所長　村　田　和　彦 …… 26
協会設立50周年に寄せて ……㈱巴コーポレーション 小山工場 執行役員工場長　鈴　木　信　貴 …… 27

協会設立50周年記念大会 …… 29

協会50年のあゆみ …… 37

会員名簿 …… 51

設立50周年を迎えて

小山市防火管理協会
会長　**鈴　木　隆　作**

小山市防火管理協会設立50周年にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当協会は、昭和47年に添野喜代初代会長のもと発足し本年をもって50年を迎えることができました。

この半世紀という長い歴史を刻めたことも、協会の維持と発展にご尽力いただいた歴代の会長をはじめ、役員、会員の皆様、関係機関の方々からのご指導ご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

顧みますと、昭和44年に小山市の人口が10万人を超え、協会発足の年には国道50号に小山大橋が開通して、高度成長期の最中に当協会は発足いたしました。それからの50年間で人口も16万７千人以上と増加しています。それに伴い、インフラの整備など社会基盤の整備も進み、時代の変化に合わせて生活様式も変化することにより、暮らしやすい社会になってきました。

その一方で、災害の様相までも変化し、予想し得なかった災害が発生するようになってきております。また地球温暖化の影響により、世界中で豪雨や干ばつ等、異常気象が起こっております。この美しい地球を守るためにも、近年の激甚化する災害から人命、財産を守るためにも自助・共助・公助の連携と地域の絆を深めることが至要であると切に感じております。

当協会といたしましても、協会の目的であります「防火・自衛消防の発展推進を期すると共に、一般の防火防災に寄与する」ために、会員相互が一致団結し、地域の安全確保に努めてまいる所存でございます。

今後、より一層の協会発展のためにも、会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様の変わりないご支援、ご協力をお願いするとともに、ご高配を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご発展、並びにご健康とご活躍を心よりご祈念申し上げ、小山市防火管理協会設立50周年記念のご挨拶とさせていただきます。

祝辞

小山市防火管理協会設立50周年記念

小山市長　**浅　野　正　富**

伝統と歴史ある小山市防火管理協会が、このたび設立50周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

昭和47年５月に設立以来、半世紀もの長きにわたり、都市防災の重要性を深くご理解いただくとともに、企業の防火管理を通じて安全で安心なまちづくりと地域産業の発展に多大なるご尽力を賜りましたことに対しまして、深く敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

貴協会は、『会員相互の融和を図り、防火・自衛消防の発展推進を期すると共に、防火防災に寄与すること』を目的として掲げ、災害のない企業づくりに邁進されながら、現在では、設立当初の150事業所から271事業所へと拡大発展し、さらには地域防災への多大なるご支援をいただいていると聞き及んでおります。

小山市といたしましても、地震や風水害等のあらゆる災害から、市民の生命と財産を守り、安全・安心なまちづくりを実現するため、引き続き小山市防火管理協会の皆様との協力体制をより賢固なものにしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本市は農業・商工業のバランスがよく、東西南北の交通の要衝にあるとともに、市街地周辺に農地や平地林などの田園環境が広がり、コウノトリが生息する首都圏有数の田園環境都市です。

この魅力溢れる環境を将来世代に確実につないでいくためには、ここに生活する一人ひとりが、真の豊かさを実感し、自己実現を目指すことのできるまちづくりを進めることが大切であると考えておりますので、引き続き小山市防火管理協会の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、小山市防火管理協会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立50周年記念

野木町長　**真　瀬　宏　子**

このたび、小山市防火管理協会が設立50周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。また、協会員の皆様には日頃より町政運営に格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和47年５月の設立以来、防火・防災に対する意識の普及、火災等の災害に対する自衛技術の習得・向上を目的として様々な事業を推進されております。その活動により小山・野木地区内において幅広い世代の人々に防火・防災への意識が広まりましたのは、周知の事実でございます。50年という長い間、協会の設立意識に沿って約半世紀の間活動を続け、ご協力くださった協会員の皆様には心より敬意を表するとともに、地域防災への多大なご尽力につきましても深く感謝申し上げます。

野木町は東京への通勤圏内に位置し、緑豊かな田園風景とＪＲ野木駅を中心とした閑静な住宅街が程よく調和した住みやすい町として発展してきました。現在は、町民の皆様が支えあい、安心して楽しく住むことができる「水と緑の人の和でうるおいのあるまち」「やさしさとやすらぎに満ちた明るいまち」を目指した施策を進めているところでございます。

平成23年の東日本大震災で日本はこれまでに経験したことのない甚大な被害を受け、多くの方々が被災されました。野木町におきましても、この震災をきっかけに防災への意識はますます向上し、より安全で安心な暮らしを求める声が高まっています。この声に応えるため、被災された皆様の復興を支援するとともに、震災についての反省を踏まえ、「安全・安心のまちづくり策」として地域防災計画の改訂や自主防災組織の支援・拡充等行ってまいります。貴協会におかれましても、安心して暮らせる災害に強いまちづくりを実現するため、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、小山市防火管理協会の益々のご発展と、協会員の皆様方のご健勝・ご多幸を心よりご祈念申し上げお祝いのご挨拶といたします。

電車と防火管理協会

小山地区危険物保安協会
会長　田　中　正　和

小山市防火管理協会設立50周年誠におめでとうございます。発足より50年の長きに亘り、火災予防は当然のこと、協会発展のために多数の方々の並々ならぬ献身的な御努力と御協力により50年と言う輝かしい節目を迎えられました事を心からお喜び申し上げます。

また、災害防止に対する指導教育等の業務をされた消防長を始め職員の方々、小山市防火管理協会長始め会員の皆様、お一人お一人に改めて深く感謝申し上げます。これからも小山市、野木町が無災害である事を祈ってやみません。

何年か前に鉄道の本を読んだ時、鉄道の動力は２種類の方法で運行していると言う事が書いてありました。一つは先頭車両が強力な力で後方の客車や貨物を引っぱる型と、もう一つは動力分散型で全ての車両、又は一車両置きに動力を取り付けて走る方法があるそうです。先頭車両が強力な力で引っぱる方法はその起動車両のみのメンテナンスで済みますので仕事は楽なのだそうです。また、もう一つの動力分散型はその動力全部のメンテナンスが必要なので数が多く仕事は楽でないそうです。先頭車両が強力な力で引っぱる方法は、万一その先頭車両が故障すると全部が止ってしまい動く事が出来ず、発車、停車の時には一車両ごとに大きな音と衝撃が伝わります。

一方、動力分散型は、故障した車両の電源を切り、残った車両の動力で走行出来ますので車両全部が止る事はなく発車、停車の時も全車両同じなので乗車している方は快適できめ細な走行が出来るのだそうです。

私が思う事は、次世代に向って当然防火管理者の方を決めて頂き、その方だけが皆さんを指導教育し、注意して毎日心配するのでなくて、防火管理者の指導の下で全社員が災害の抑止を事ある毎に有意識で（無意識だから災害が発生すると思う）、日常の業務を遂行していけたら良いかと思います。そのお仕事に携る方は大変ですが、50年と言う長い歴史を、更に60年、70年と今後益々発展されます事を心より御祈念申し上げて私の挨拶とさせて頂きます。

協会設立50周年を祝して

小山市消防本部
消防長　**諏　訪　良　作**

小山市防火管理協会が設立50周年の節目を迎えられたことに、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和47年に関係各位のご尽力により設立して以来、数々の事業を通じ、防火防災思想の普及、啓発、自衛消防の発展、推進に多大なる成果を挙げてこられました。 このことは、歴代会長をはじめ会員の皆様方のたゆまぬご尽力の賜物であり、敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

さて、近年では、局地的な豪雨や台風などの自然災害が毎年のように発生し 全国各地で甚大な被害が生じています。 今後も首都直下地震等が危惧されており、消防防災行政をとりまく環境は大きく変化しています。 加えて、新型コロナウイルスという新たな感染症の拡大による影響は、世界規模で経済や人々の社会生活等、多方面に波及しており、消防業務においても、徹底的な感染防止対策を行うなど、活動体制の維持、確保に努めているところであります。

当消防本部では、市民の生命、身体及び財産を災害等から守り、今後、変化していくことが予想される社会情勢に対応し、地域住民はもとより企業等も含めた 「“安全・安心” な小山市」 を実現するために邁進しております。そのためには、貴協会との連携や企業防災の礎となる事業所の皆様の安全に対する取り組みが不可欠であります。

貴協会が 「自らの企業から災害は出さない」 との理念をもとに取り組む企業防災の充実は、地域防災力の向上につながることから、今後とも、引き続き変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、小山市防火管理協会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げ、設立50周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

50周年によせて

協会設立50周年によせて

㈱UACJ押出加工小山
総務室長　**今　村　隆　喜**

小山市防火管理協会設立50周年を迎えて、心よりお喜び申し上げます。また、協会設立以来、協会の運営・発展にご尽力された方々への敬意と感謝を申し上げます。

弊社は1942年に主に戦闘機用の部品を製造する工場として、古河電気工業株式会社の一部門であるアルミニウムの鋳物・押出・加工工場として、現在の地で操業を開始いたしました。以来、同業他社との合従連衡により、古河電気工業→古河アルミニウム工業→古河スカイ、と社名を変更してまいりましたが、2013年に古河スカイと住友軽金属工業株式会社が合併してＵＡＣＪグループが誕生したことから、小山工場も「ＵＡＣＪ押出加工小山」として新たにスタートして現在に至っております。「ＵＡＣＪ」は聞きなれない響きだと思いますが、国際競争力を持つアルミニウムの世界的なメーカーを目指す、統合で誕生した日本のアルミニウム会社、という意味が込められています。

上述の歴史を持つ工場ですが、操業以来、幸いにも大きな火災が発生したという記録はありません。ただ、皆様ご承知のように火災はいつ、どこで、思いもよらない原因により発生するかわかりません。突然発生する地震などによる火災なども考えると、どこの、どんな建物にも火災が発生する危険が潜んでいます。防火管理とは、火災の発生を未然に防止し、万一火災が発生した場合でもその被害を最小限にとどめる為、必要な万全の対策を樹立し実践すること、そこで重要になるのが「自分のところは自分で守る」ことが原則だと言われています。弊社でも毎年１回、隣接するＵＡＣＪ鋳鍛と両社合同で約300名を対象に防災訓練を行っております。ただ、毎年行っているにもかかわらず、毎年必ず問題点・反省点が挙げられております。本当に大きな災害が起こったときに訓練どおりに対応できるのか、という懸念も抱えております。いざというときに役立つ「必要な万全の体制」の構築を目指して訓練を重ねており、これからも模索していく所存です。

また、昨今の情勢に合わせて弊社でもＢＣＰ（事業継続計画）の策定に着手しております。これは防災訓練をより一層進化させ、避難訓練にとどまらずに、災害発生時に事業をどのように継続するかも含めた防火防災計画を目指していくものです。

そうした点も踏まえて、今後も協会活動に参加させていただきながら、ご指導ご鞭撻を賜り、弊社の防災体制構築を進めていく事に加えて、協会の更なる発展に少しでも寄与できればと考えております。

末筆ながら、小山市防火管理協会の益々の発展を祈念するとともに、関係各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

協会設立50周年によせて

昭和電工㈱ 小山事業所
総務部長　**小　寺　普　次**

小山市防火管理協会の設立50周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

本協会設立50周年は、永年当協会発展のためにご尽力いただいた役員、会員各社、そして日頃から熱心に防火管理のご指導をいただいている小山市消防当局（本部・分署）関係者の皆様のおかげであると、感謝を申し上げるとともに、敬意を表させていただきます。

50周年という大きな節目を迎え、改めて防火・防災に対する重要性・責任についての思いを強くしております。当事業所は1961年に昭和アルミニウム㈱小山工場として操業を開始し、以来、アルミニウムの鋳造、押出とアルミ素材を使用したアルミ加工品を生産しており、2001年に昭和電工㈱との合併を経て現在に至っております。また、2023年１月には、昭和電工㈱と昭和電工マテリアルズ㈱（旧日立化成）を統合し、新商号による統合新会社として、新たな一歩を踏み出す予定です。「安全は全てに優先する」という信念のもと、「グローバルトップレベルの安全、コンプライアンス」を築きあげ、持続可能なグローバル社会に貢献する会社を目指していく所存です。

小山事業所の周辺は地域住民の方々の住宅と隣接しておりますので、日頃から「火災等の災害を絶対に起こさない」という強い気持ちで事業所運営を実施しております。2011年の東日本大震災以降、当事業所においても火災や地震に対する予防や未然のための準備を進めてきておりましたが、昨年は消防設備の不良箇所の指摘や、溶解炉における設備事故があり、消防当局の皆様のご指導をいただきながら、改善への取り組みを行ってまいりました。昨年の反省を通じて、定期点検後の速やかな対応や老朽化設備の計画的な対策等、予防への認識を強くしたところです。また昨年来、夜中に大きい地震が複数回発生しており、非常事態発生時の対応充実の必要性も強く感じております。

当協会の目的である「防火・自衛消防の発展推進を期するとともに、一般の防火防災に寄与する」ため、また今後とも地域住民の皆様に安心して日常の生活をしていただけるよう、事業所内における防火・防災意識の向上と火災予防運動の定着を進めてまいります。事業所全体での防災訓練（消火・避難訓練）についても継続的に強化し、当協会の活動や事務局からのご指導も賜りながら、より実践的な体制を構築していきたいと考えております。

最後になりましたが、当協会ならびに会員各社及び消防当局の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念申し上げ、協会設立50周年の御祝いの言葉とさせていただきます。

ご安全に！

協会設立50周年に思う

㈱田中屋

代表取締役　**坂　本　裕　則**

小山市防火管理者協会設立50周年、誠におめでとうございます。

当協会のバトンを受け継いでいる者の一人として、先人の方々の当協会に対する熱き思いを、今ひしひしと感じております。

さて、会の年譜に私自身を当てはめて見ますと、防火管理者資格を取得して45年の月日が流れ、そして協会の活動に初めて参加してから41年が経過しようとしています。

防火管理者の資格は、昭和52年10月、旧小山消防庁舎の３階大会議室で、２日間の講習を受け取得しました。また、初めて参加した協会活動は、昭和56年11月視察研修（千葉県市原市出光製油所ほか）旅行。そのバスの中で、当時副会長の柳勲氏が、任期途中の添野喜代初代会長に替わり、二代目会長に就任した旨の挨拶をされたのを鮮明に覚えています。協会50年の歴史の中で40年を超える月日を共にしているわけですから、当協会は私にとりましては、もはや身体の一部と言っても過言ではないと思います。

ところで、当協会には、「防火管理」の冠が付いています。人を束ねることを否応なく求められます。職責として、同じ辛さ・楽しさを経験するものが集まる当協会員は、当たり前のごとく皆、仲良くなります。剛の強者（つわもの）、柔の強者。実に多様な方々に接することが出来ました。これらの方々と知己を得たことが、ある意味私にとっては人生の財産です。

また協会の歴史を語る上で、忘れてはならないのが、消防本部事務局職員の方々です。

消防長はじめ予防課長、係長、主任、課員の方々。協会運営が、円滑に出来るのも消防本部の方々のご尽力があればこそのこと。実に細やかなフォローを戴いています。

自分の年齢からして、いよいよバトンを渡す側となりました。

しっかりと次の世代へ繋いで行きたいと、心から思っております。

協会設立50周年を祝して

㈱オリジン 間々田工場

工場長　**大　森　和　義**

小山市防火管理協会設立50周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

ここに節目の50周年を迎えられたことは、ひとえに鈴木会長をはじめ小山市消防本部並びに会員の皆様の努力の賜と感謝申し上げます。

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の流行は新たな変異株の出現により今なお収束の光が見えておりません。パンデミックによりあらゆる業種の企業が打撃を受け、廃業に追い込まれるケースも少なくない状況となっております。感染防止対策により、我々の生活環境は一変し、当協会の各種行事も中止、延期、縮小を余儀なくされました。以前の生活に戻れるよう、コロナの早期収束を心より願うばかりです。

弊社の当工場は昭和20年に創業し、現在ではニッチな技術を生かし、精密機構部品（ベアリング類）と半導体デバイス（低圧・高圧ダイオード類）の製造販売をしております。精密機構部品はＯＡ機器やＡＴＭの二重送り防止機器などに採用されており、国内・海外で販売されております。半導体デバイスは医療機器や自動車関連の部品として採用されております。製造過程においては、危険物に類する資材も使用されるため、防火については細心の注意を払った管理をしております。「防火管理委員会」に加え「職場消防隊」や「自衛消防隊」を組織し、定期の消火訓練、避難訓練等を実施し万一に備えての危機管理体制を整えております。また当工場は一般住宅に隣接していることもあり、社内における防火や安全管理だけではなく、地域とのコミュニケーションを大切にし、緊急時における支援体制を整えていきたいと考えております。

私が当協会に理事としてお世話になってから十数年が経ちました。この間に東日本大震災を経験し、防災に対する考え方が大きく変わりました。「自分たちのまちは自分たちで守る。自分たちの事業所も自分たちで守る。」故柳会長のお言葉を胸に刻み、今後も防火管理業務に邁進する所存でございます。

結びに、防火管理協会並びに会員各社の益々の発展と皆々様のご健勝をご祈念申し上げ挨拶と致します。

協会設立50周年を祝して

東京鐵鋼㈱ 本社工場

本社工場長　**中　山　義　則**

協会設立50周年、誠におめでとうございます。

永年貴協会発展のためにご尽力頂いた役員、会員各社、そして日頃から熱心に防火管理のご指導を頂いている小山市消防当局関係者の皆様に感謝を申し上げます。

本社工場では、ビル、マンション等の建築物には欠かせない「鉄筋コンクリート用棒鋼」を製造しています。電気炉にて鉄スクラップを溶解し、連続鋳造設備にて一度半製品にします。その後、加熱炉にて半製品を再加熱し、圧延することで製品を製造しています。

その製造過程では、電気炉で大容量の電気を取り扱い、加熱炉にて都市ガスを取り扱っているため、常に高熱物、危険物が隣り合わせとなっている職場環境であります。万が一にも火災を発生させてしまった場合には、従業員の人命を危険にさらすだけでなく近隣の工業団地、住宅地にも被害を及ぼしかねません。それゆえ高熱物、危険物を取り扱う意識を常に高く維持し、防火活動を充実させる必要があります。

そこで、本社工場では、日頃から小山市消防本部、大谷分署並びに貴協会のご指導により、防火意識の高揚及び予防処置、並びに避難・消火訓練や防火施設の維持管理等、防火管理体制の維持に努めています。

また、近年では自然災害（地震・台風等）の発生頻度も多く、被害状況も大きくなってきています。自然災害はいつ発生するかわかりませんので、日頃からしっかり準備をすることが必要となります。本社工場では、東日本大震災後、事業継続計画（ＢＣＰ）を策定し、対策を実施してきました。それにより自然災害の被害を最小限に抑え、事業を継続することが地域の皆様に貢献することと捉えていますので、引き続き防災対策を強化して参ります。

今後とも、貴協会の活動に積極的に参加し、小山市消防当局のご指導を頂きながら、会員の皆様との意見交換をより一層深め、地域の皆様と共に防火活動に取り組んで参ります。

終わりに、貴協会の益々のご発展と会員皆様のご健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせて頂きます。

協会設立50周年に寄せて

㈱東光高岳 小山事業所

事業所長　**齋　藤　雅　則**

このたび小山市防火管理協会が設立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また協会の運営、発展にご尽力いただきました皆さまに深く感謝いたします。

東光高岳小山事業所は、旧高岳製作所の大型変圧器工場として昭和37年に操業を開始し、以来、生産機種を増やしつつ60年の長きにわたり生産を続け、現在では弊社の主力工場となっております。これまで生産を続けてくることができましたのも、消防の皆さまをはじめ協会の皆さまのご指導・ご支援のおかげと感謝しております。

東日本大震災から10年余り、地震の頻発、温暖化の影響でしょうか、酷暑や台風など気象現象の活発化、それに伴う停電や物流の停滞など、防災を取り巻く環境も大きく変わってまいりました。災害が多様化する中で防災、減災を確実に行っていくために、これまで以上に様々なケースに対応できる対策、訓練を行っていく必要性を強く感じ、日々の防災活動を推進しております。

しかしながら近年は、コロナ禍によるクラスター発生防止の観点から全員参加の形での防災訓練の実施が難しい状況となっており、リモート機器の活用など、感染防止に努めつついかに有効な訓練を行うか試行錯誤しております。

災害だけでなく、周辺環境も多様化するなか、その対応を充実したものにするためには、小山市防火管理協会の皆さまとの連携・協力、並びに消防の皆さまのご指導が欠かせないものと考えております。今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

終わりに、小山市防火管理協会の益々の発展と、会員の皆さまの益々のご健勝、ご繁栄を心より祈念申し上げます。

協会設立50周年によせて

文化シヤッター㈱ 小山工場

工場長　**蓮　見　幸　夫**

小山市防火管理協会設立50周年を迎え、心よりお喜び申し上げます。また、設立以来、協会発展のためにご尽力された方々への敬意と感謝を申し上げます。

弊社小山工場は、1968年にシャッター生産工場として開設以来、今まで大きな事故や火災を起こさず操業できています。これは、ひとえに小山市防火管理協会や小山市消防当局の皆様のご指導ご支援の賜物と深く感謝しております。

当工場では塗料等危険物を扱い、ガス燃焼による焼付乾燥作業もありますので、日頃から防災意識を高め、消火避難訓練並びに予防処置や防災施設の維持管理に取り組み、万が一の際にも被害を最小限に抑えることを意識して防災対策を行っていますが、最近は世界中で想定外の災害や出来事が多く発生していることもあり昔の常識が通用しない時代となっています。

これからは、今までよりレベルを引き上げた予防対策に取り組む必要があると考えています。

弊社は、防火用設備としてシャッターを製造販売開始して67年になります。防火シャッターというと無骨なシャッターをイメージしがちですが、最近では防火シャッターでありながらスタイリッシュで町並みに馴染むポルティエやフラムヴェスタ（弊社製品の商品名）といった製品もラインナップし時代の変化に対応した商品を幅広く販売させていただいております。また、防火性能についても国の求める基準以上に年々性能を向上させ、製品に於いても防火対策に取り組んでおります。

「自分たちを守り地域を守る」といった企業の社会的責任を果たしていくために、貴協会や会員各社の皆様と共に協力して活動し、発展していくことが大切です。今後も貴協会の活動に対し、小山市に働く企業として微力ではありますが寄与していきたいと考えております。

終わりに、小山市防火管理協会ならびに会員各社の益々のご発展とご活躍を祈念申し上げ、協会設立50周年へのお祝いの言葉とさせていただきます。

協会設立50周年によせて

㈱小松製作所 小山工場
総務部長　石　田　　修

小山市防火管理協会の設立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

また、設立以来より地域防災にご尽力されてこられました役員・会員各社の皆さまをはじめ、日頃よりご指導いただいております小山市消防当局関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

弊工場では1962年の稼働以来、皆さまからのご指導・お力添えをいただきながら半世紀以上にわたり現在に至るまで出火などの大過なく生産活動を続けて参りました。特に、生産に必要な燃料や塗料、可燃性ガス、粉末状の金属等も多く貯蔵することから火災予防に重点を置き防火活動を継続しております。残念ながらここ数年は他社同様にコロナ禍の影響を受け、特に外部での研修や消火器競技大会等の中止など思うような活動が出来ずにおりますが、考え得るリスクを想定して建屋毎の避難を含めた防災訓練や消火栓からの放水訓練、また水消火器を使用した消火訓練、夜間の災害想定など、非常時に対応できる訓練・予防活動を目指し模索を続けております。

また、火災のみならず、地域での防災力向上にはまず一人一人の防災意識の向上が重要です。昨年末に総務大臣が「地域防災」誌に寄せられた文章に「地域防災力を一段と高める必要がある。国や自治体による対応（公助）だけでなく、自分の身を自らの努力によって守り（自助）、地域や近隣の人々が互いに協力し合いながら防災・救助活動に取り組む（共助）という、「自助」「共助」「公助」の働きが一体となって機能することが重要」との一文が印象に残っております。

多くの人は「まさか自分の職場から火災は起きまい」と思いがちですが、「自分の職場から火災を起させない」意識に変えて行かねばなりません。防火・防災管理者の責務として社員一人一人の防火・防災意識の高揚を図りながら、それでも万が一の際の被害を最小限に抑える努力も惜しんではならないと考えます。

弊社といたしましても自工場だけでなく、微力ではございますが地域や協力企業の皆さまとともに引き続き防火・防災に取り組んで参ります。

今後とも小山防火管理協会の一員として引き続き協会関係者、小山消防署の皆さまのご指導・ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げますとともに、会員皆さまのご健勝と本協会の更なるご発展を祈念し、設立50周年のお祝いのご挨拶といたします。

協会設立50周年によせて

富士通㈱ 小山工場

工場長　**市　川　裕　一**

小山市防火管理協会設立50周年、おめでとうございます。大きな節目を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。また、協会設立以来、運営ならびに発展にご尽力いただいた関係皆様に、厚く感謝を申し上げます。

私ども工場も、1959年11月に、この小山の地に開設以来60有余年が経ちました。以来、通信関連機器の基幹工場として、第５世代移動通信（５G）などの社会の基盤となる先進のネットワーク機器の他に、地方自治体様向けの防災情報システムを、製造しております。製品を通して、災害下の緊急対処時においても、通信の確保や防災・防火活動を下支えし、地域住民みなさまの安心・安全の一助になるべく、『ものづくり』に誇りと責任を持って努めてまいりたく存じます。

東日本大震災のような大きな自然災害も経験した後、日々の平穏な暮らしに感謝するとともに、防災・防火活動は、平時からの準備や心構えが大切であると認識しております。

当小山工場と致しましても、地域の皆様にご安心いただける事業所であり続けるべく、日頃より事業所内の防災・防火への意識を高めるとともに、火災予防運動のさらなる充実を図って参ります。

最後に、防火管理協会ならびに会員各社様のますますのご発展を祈念すると共に、消防当局様の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いし、防火管理協会設立50周年のお祝いと50周年からの新たなスタートへのご挨拶とさせていただきます。

協会設立50周年によせて

栄研化学㈱ 野木事業所

事業所長　**古　橋　弘　康**

小山市防火管理協会設立50周年を迎えるにあたり、心からお祝い申し上げます。また、設立以来長きに亘り協会発展のためにご尽力されてこられた関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

当社は、体外診断薬メーカーであります。『ヘルスケアを通じて人々の健康を守ります』を経営理念に、『品質で信頼され、技術で発展する“ＥＩＫＥＮ”』をモットーとして、社会貢献活動に取り組み、人々の健康と安全な生活および医学と公衆衛生の発展に寄与しております。

防災活動は、日常の意識と定期的な訓練が重要と感じた事例をご紹介いたします。

昨年、当事業所のサッカー場にて、活動中に心室細動（心臓の筋肉がケイレンした状態になり、全身に血液を送るポンプ機能を失った状態。致死性不整脈の一つです。）となってしまったことが有りました。救急車を呼ぶのと並行して、心肺蘇生とＡＥＤによる電気ショックの処置を行い、一命を取留めることが出来ました。

この報告を受けた時に感じたことは、「救急車を呼ぶ決断の速さ」「人工呼吸をする技術」「ＡＥＤを使う勇気」に感心させられました。私にはとても出来ないことであり、その場に居合わせた方々の行動力（チームワーク）が一人の命を救ったものと大変感心させられました。この様に、人命救助の背景には、講習会で身に付けた技能と防災に携わっている方々の活動が功を奏したものと考えます。

正直、設置しているＡＥＤを使用する時が来るとは思ってもいませんでした。人命救助に役立てられて、設置してよかったと本当に感じています。今回の件をきっかけとして、サッカー場の部室にＡＥＤを増設しました。（使われない方が良いとは思いますが）。

いつ何時、何が起きるか分かりませんので、日常点検・定期点検を充実させ、万一に備えた防災訓練を実施するとともに、高齢化社会における社会貢献として職場と地域が連携した防災予防の意識が大切と考えています。

最後に防火管理協会の益々のご発展と、消防署のご指導をお願い申し上げます。

小山市防火管理協会 設立50周年によせて

ゼブラ㈱ 野木工場
管理部　吉　田　　孝

小山市防火管理協会設立50周年を迎え、設立以来多くの方々が活動を支えられ協会の発展のためにご尽力されてこられたことに、深く感謝申し上げます。

弊社においても、協会の皆様には日ごろからご指導を頂き、おかげさまをもちまして現在まで大きな災害は発生しておりません。段階的に防災対策も進められ現在も活動を継続しております。

ゼブラ野木工場においても工場操業開始から56年目を迎えるのですが、その間、特に大きな事故もなく創業を続けられたのも、協会の皆様のお力添えがあったからこそと振り返りあらためて感謝申し上げる次第です。

しかしながら、2011年の東日本大震災の際は弊社工場も建屋においては、少なからず被害を受け復旧に時間を要しました。震災発生以前より生産規模の変化や生産効率及び、工場操業維持の観点も含め、建屋の更新を検討しておりましたが、2022年３月より新建屋の建築開始となり、只今約一年後の竣工にむけ順調に工事が進んでおります。

新しい建屋では生産効率のさらなる向上を含め、防災に関しましてもこれまで培った活動を反映させ、より安心、安全な工場として再構築を図って参る所存です。

そのためには国内唯一の生産工場として小山市防火管理協会をはじめ、小山消防署、野木町とさらなる連携を図り、ご指導を仰ぎながら次の50年、100年へつなげていく防災への取り組みをより一層活性化し、地域に根ざした社会貢献を果たせる企業として勤めて参ります。

引き続き小山市防火管理協会の皆様には、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げまして、防火管理協会各社、並びに小山消防署の皆様の益々のご発展を祈念いたします。

協会設立50周年を祝して

東京鋼鐵㈱ 本社・小山工場
安全防災課　**大　屋　健　治**

小山市防火管理協会設立50周年、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

設立以来、50年という長きに渡り防火管理協会の発展、そして小山地域と各企業の安全・安心の為に御尽力いただいて来た、会長をはじめとする役員の方々、各事業所の先輩方、そしてどんな状況下においても冷静、迅速に任務にあたって下さっている小山市消防当局の皆様に心より感謝を申し上げる次第でございます。

いま私達を取り巻く状況は自然環境等を含め大きく変化しており、東日本大震災から11年を過ぎた今でも頻発する地震や「50年に１度」や「観測史上初めて」等といった言葉から始まる台風、大雨、それによる水害等のニュースが報道されておりますが、数年前には小山の街も水害による甚大な被害を受けた経緯がありますので、私達一人一人が防火・防災について更に意識を高めなければならない時だと考えます。

私は数年前に当社の安全防災担当部署へ配属となりましたが、その頃から猛威を振るい始め、未だに収束の方向が見えない新型コロナウイルス感染問題に、皆様も各所に於いて日夜、大変な思いをされている事かと思いますが、そのような状況もあり理事会や各種協会行事が延期、中止となってしまい、これから皆様に色々とご指導いただこうとしていただけに残念でなりません。当社においては感染防止を考えながら、短時間・小規模での消火訓練や防災教育を再開しましたが、やはり当協会が主催する消火訓練大会等に参加し、直に活動に触れるのが一番の学習になると思いますので、１日も早い収束を願い当協会の積極的な活動に参画し、当事業所の防火管理対策に役立てたいと考えておりますので今後とも、ご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げると共に、小山市防火管理協会が今後ますます御発展する事を祈念申し上げまして、御祝いの言葉とさせていただきます。

協会設立50周年を祝して

古河産機システムズ㈱ 小山工場
常務取締役生産本部長　**田　村　　直**

小山市防火管理協会が設立50周年を迎えられましたこと、会員の皆様とともに心よりお喜び申し上げます。長年当協会が発展を続けてこられましたことは、関係各位の並々ならぬご努力の成果であると深く感謝申し上げます。また、日夜小山地域を火災から守り、予防活動のご指導を頂いております消防本部関係各位にも、感謝と敬意を表するものであります。

大規模火災事故で調べましたところ、2000年代で起きた出火原因の約半数が放火だとのことのようです。2019年７月に京都市で起きました京都アニメーション第１スタジオに男が侵入し、バケツからガソリンを建物１階に撒いて、ライターで着火したという大規模な放火殺人事件があり、社員70名のうち36名が死亡、33名が重軽傷という過去に例を見ない大惨事でした。同社は以前から防火・防災に熱心に取り組んでおり、伏見消防署長表彰も受けていたそうです。また、2021年12月に起きた大阪北新地ビルの４階のクリニックの火災も新しい記憶として残っています。出入り口付近に置いた液体の入った紙袋にライターで火をつけ放火。死亡者27名・負傷者１名というこの事件も非常に残虐であり、京都アニメーションの放火殺人事件を模倣したとも言われていました。そして行政は、再発防止策を検討するため全国の消防に対し、火災が発生したビルと同様な階段が一つしかなく、不特定多数の人が出入りする全国の３階以上の雑居ビル約３万棟について調査を行うように要請しています。小山市消防本部の方々もビルの立ち入り検査でご苦労されたと思います。

小山市近隣の災害で記憶にある出来事は、2019年10月に栃木県を直撃した台風19号が思い出されます。市内河川の氾濫が発生し、洪水災害により市内546戸の家屋が床上・床下浸水したそうです。当工場の西側に位置する小山中学校の校庭が水没していたことを思い出します。この時にも消防本部の皆様の救助活動等、大変な思いをしながらの活動に心より敬意を表します。

当社工場は、昨年に点々としていた木造建屋事務所から３階建ての総合事務棟を建設いたしました。総合事務棟を建設する上で消防本部よりご指導を頂き防火・防災に対し強固な建屋と自負しています。工場では、ガス切断や溶接など火を扱う職場が多々あります。今後は更に「防火管理」の活動は重要であり、日常点検・定期点検を充実させた防災予防と、万が一に備えた防災訓練と啓蒙活動の継続を実施するとともに、益々高齢者が増加する社会になっておりますので、家庭・職場・地域と連携し防災予防の責務を果たしていく所存です。

最後に、今後も小山市防火管理協会の一員として、協会関係者並びに小山消防本部の皆様のご指導ご鞭撻をお願いすると共に、本協会のさらなる発展と、協会関連の皆様のご活躍を祈念いたしまして小山市防火管理協会設立50周年へのお祝いの言葉といたしたく存じます。

小山市防火管理協会設立50周年を記念して

レンゴー㈱ 小山工場

工場長　**樽　海　　満**

小山市防火管理協会におかれましては、設立50周年を迎えられましたこと誠におめでとうございます。長年防火管理協会が発展を続けてこられましたことは、関係各位の弛まぬご努力の成果であると心よりお慶び申しあげます。また、長きに亘り、企業防災の推進や地域防災への支援等に対し多大なるご尽力とご協力を賜りましたことに深く敬意を表し、厚く感謝を申しあげます。

さて、近年では、豪雨・台風災害などが毎年のように発生し、全国各地で甚大な被害が生じております。また、自然災害による被害は豪雨や台風に限られるものではなく、地震による被害も多く発生しており、茨城県沖を始めとした大規模地震の発生も危惧されている状況です。消防防災行政をとりまく環境は、ますます大きな変化を迎えており、対応の難しい局面にあります。

さらに、新型コロナウイルスという新たな感染症の拡大による影響は、世界規模で経済や人々の社会生活など多方面に影響を及ぼしており、消防業務においても、以前にも増して徹底的な感染防止対策を行うなどの対応が必要となっております。

このような環境下におきまして、企業が事業を継続していくためには、防火・防災の取り組みを欠かすことはできません。特に当工場は、段ボールを中心とした紙加工製品を製造していることから、普段から最新の注意を払って火災予防に努めており、全職場において６Ｓ活動を推進しております。６Ｓ活動とは、「整理」・「整頓」・「清掃」・「清潔」・「躾」・「作法」の６つのＳであり、「整理」・「整頓」・「清掃」の３Ｓ活動を推進し「清潔」に職場を保つことを「躾」としていくことで、それが企業の「作法」になるという考えのもと、職場内を管理監督者が毎月パトロールして不備のある箇所を指摘し改善することで、安全・安心な職場づくりをしていくという活動です。紙加工製品は可燃性が高いため、当工場は、今後もこの６Ｓ活動を通じて職場内の危険の芽を摘み、自工場からは決して火災を発生させないよう防火・防災に努めて参ります。

最後になりますが、このような自社の企業努力をもってしても、関係各位のご協力なくしては地域社会の安全確保は困難です。皆様と助け合いながら小山市が安全・安心な街となるよう努力して参りたいと存じます。今後も小山市防火管理協会、会員企業各社様、消防当局の皆様に、これまでにも倍するご指導ご鞭撻をお願いするとともに、皆様の益々の発展とご活躍を祈念いたしまして協会設立50周年へのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

以　上

小山市防火管理協会設立50周年を迎えて

アルテミラ㈱ 小山工場

工場長　**山　口　建　次**

この度は、小山市防火管理協会設立50周年を迎え、心よりお慶び申し上げます。

設立以来協会の運営、発展にご尽力いただきました消防本部の皆様はじめ関係各位にも火災予防に関してご指導いただき関係者の皆様にも深く感謝と敬意を表します。

さて、最近は、火災だけでなく、地震や台風、集中豪雨、大雪などの自然災害が発生し、多くの方が被害に遭遇されて、心を痛めることがあります。

弊社では、幸いにもこのような災害に遭い、被害を受けるケースはあまりありませんでしたが、いつ何時同じようなことになるか、わかりません。昨今は地震だけでなく、台風や集中豪雨等の様々な自然災害が発生し、新型コロナウイルスなどの感染症による影響もあり、企業を取り巻くリスクはますます増大している状況です。

弊社は、これまでに策定していたＢＣＰについて、見直しを行ってまいりましたが、「自分のところは自分で守る」の考えで、自然災害を含め様々なリスクに対して被害を最小限にするために、ＢＣＰの見直しを進め、常日頃からリスクの管理を進めてまいります。

防火については、火災を発生させない、発生しても被害を最小限にすることを念頭に消火設備の点検及び維持、工場で使用する電気やガス等の取り扱いには十分に注意し、火元管理を徹底し、火災予防に努めてまいります。

また、火災は尊い人命や貴重な財産を一瞬のうちに奪い、地域の皆様に対しても多大なご迷惑や損害を与えかねないことから、万が一に備えて、自衛消防組織による訓練を定期的に実施し、消火栓からの放水訓練や消火器を使用しての消火訓練、避難、救護活動などで、防火意識の向上に努めてまいります。

最後に、小山市防火管理協会並びに会員各位の益々の発展とご健勝を心からお祈り申し上げ、祝辞といたします。

協会設立50周年によせて

関東自動車㈱ 県南営業所

所長　**村　田　和　彦**

小山市防火管理協会設立50周年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げますとともに、当協会の発展にご尽力された方々への感謝と敬意を申し上げます。

当社はバス運行事業に携わっており、引火性液体である軽油・灯油とは切っても切れない関係にある事業所であります。これらは地下タンクに貯蔵されており、直に目では見えない場所にある危険物の管理は、気づけずに漏れ出してしまったら周辺住民の方々に多大なご迷惑をおかけしてしまう、といった不安が日々付きまとうものです。そんな中、消防本部の皆様には定期的な検査を通じてご指導いただき、大変感謝しております。

当社が目を配らなければならないのは、軽油・灯油の地下貯蔵タンクのみではありません。

万が一にも車両火災が発生すれば、住民の方々のみならず地域の道路交通にも多大な迷惑をおかけしてしまいます。日頃よりバスの点検は十二分に行っておりますが、乗務員の防災意識を高めて、いざという時はお客様の安全を確保し、必要に応じて消火器等も速やかに使うことができるよう継続して指導をして参る所存です。

また、バスは地域の皆様の足として毎日運行しております。外出先で体調を崩された方や、お独りで徘徊されている方にも気づくことのできる環境にありますので、小山市消防本部や小山市消防署の皆様の教えを頂きながら、お困りの方の手助けができるよう努めて参りたいと思っております。

最後に、小山市防火管理協会の益々のご発展を祈念するとともに、協会関連の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

協会設立50周年に寄せて

㈱巴コーポレーション 小山工場
執行役員工場長　**鈴　木　信　貴**

小山市防火管理協会設立50周年を迎えられましたこと、会員の皆様と共に心よりお喜び申し上げます。また協会活動におかれましても会員事業所を中心とし防火防災の未然防止・意識向上を図る努力を続けてきました。

人々の生活を豊かにし生活には欠かせない「火」ですが、時には、人々の尊い生命と貴重な財産を一瞬で奪ってしまう大災害に直結することになります。

近年、火災で記憶に残るものとして、沖縄県那覇市の首里城火災（令和元年10月31日未明）です。世界遺産である首里城が火の海に包まれた映像を見た時の衝撃は今でも鮮明に覚えています。消防車50台以上による消火活動が約11時間行われましたが、正殿をはじめとする９施設が焼失しました。工事エリアでの配線が出火原因の可能性があるとのことでしたが負傷者がいなかったのが不幸中の幸いでした。

このようなことから日頃の防火管理体制および防火管理者と管理権限者の責務、何より社員一人ひとりの意識を高めることが重要となります。

弊社、工場では「火」は神聖なもので新年の仕事始めは「火入式」から始まります。高圧ガス設備を使用したガス切断や溶接を中心とした職場の為、日々防火管理に細心の注意を払っています。また、毎年11月には消火訓練、３月にはＢＣＰ災害訓練を通し、防災体制の見直し、避難通路の再確認、備品の見直し等の訓練・確認を実施し、社員一人ひとりの意識を向上し万一の際の災害を最小限に抑える努力を続けて参ります。

終わりに市民の尊い命と貴重な財産を日夜守っていただいている小山市消防関係者の皆様に感謝すると共に、会員の皆様と今後も防火防災意識の向上を図り、より充実した防火管理と小山市防火管理協会のご発展と体制作りに寄与できることを祈念すると共に、皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、協会設立50周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

協会設立50周年記念大会

記念式典

開会のことば

会長式辞

小山市長　祝辞

野木町長　祝辞

来賓席

小山市消防本部へ記念品贈呈

表　彰

特別功労者　小山市長表彰

功労者　協会長表彰

功労者　協会長表彰

功労者　協会長表彰

優良事業者表彰

表彰者一覧

小山市長表彰（特別功労者表彰）

学校法人鈴木学園	鈴木　隆作
㈱田中屋	坂本　裕則
国際第一ホテル㈱	金山　秀雄

小山市防火管理協会長表彰（功労者表彰）

小平産業㈱	小垣内元紀
㈱オリジン間々田工場	大森　和義
東京鐵鋼㈱本社工場	関　　健
学校法人栗の実学園　認定こども園栗の実	平野　章雄
㈲銀星会館シネマロブレ５	柳　　健
㈱東光高岳	太田　嘉和
宇都宮ステーション開発㈱	塩澤　光男
銀星薬局	三井　勝滋
社会福祉法人洗心会	大木　　誠
㈱ＵＡＣＪ押出加工小山	今村　隆喜
昭和電工㈱小山事業所	小寺　普次
㈱小松製作所小山工場	磯部　浩二
栄研化学㈱野木事業所	永田　博保
古河産機システムズ㈱小山工場	大塚　康明
日本ピストンリング㈱栃木工場	新谷　孝之
アルテミラ㈱小山工場	小林　浩司
㈱巴コーポレーション小山工場	染谷　直弘

小山市防火管理協会長表彰（優良事業所表彰）

文化シヤッター㈱小山工場

富士通㈱小山工場

東京鋼鐵㈱本社・小山工場

KDDIエンジニアリング㈱

レンゴー㈱小山工場

関東自動車㈱県南営業所

ゼブラ㈱野木工場

㈱足利銀行小山支店

イオンリテール㈱イオンモール小山

森永製菓㈱小山工場

大会宣言

一、われわれ防火管理協会員は、火災等災害予防を基本理念とし知識、技術の習得に努めるものとする。

一、われわれ防火管理協会員は、災害発生時に的確にして迅速な対応を可能ならしめる為、平素訓練に努めるものとする。

一、われわれ防火管理協会員は、防火管理は自己企業の防衛であることを理解し日常の点検管理に努めるものとする。

一、われわれ防火管理協会員は、互いに協力しあい小山市・野木町防災の一翼の担い手として行動するよう努めるものとする。

記念講演

記念講演

演題／「防火管理者として押さえておくべき
防火・防災・BCP の本質」

講師紹介

講師／森　健（もり たけし）氏

一般社団法人 日本経営協会 専任講師・専任コンサルタント
森総合研究所 代表 兼 首席 研究員
内閣府「防災技術の海外展開に向けた官民連絡会」メンバー

記念祝賀会

祝賀会の様子

協会50年のあゆみ

歴 代 会 長

初代会長
添野　喜代
昭和 47 年 5 月 ～ 昭和 56 年 6 月

第 2 代会長
柳　　勲
昭和 56 年 7 月 ～ 平成 26 年 4 月

第 3 代会長
鈴木　隆作
平成 26 年 5 月 ～ 現在

表彰受賞歴

栃木県防災功労者知事表彰

安全功労者消防庁長官表彰

安全功労者内閣総理大臣表彰

昭和 47.5.10	小山市公民館にて当協会設立
	会員 150 事業所
	会長に添野喜代氏就任
7.10	会報（臨時号）を発行
9.25	消防法施行令の一部改正に伴い、講習会を開催
11.20	会報（創刊号）を発行
48.2.6	消防法施行令の一部改正に伴い、講習会を開催
3.28	会報（№1）を発行
4.1	会員 152 事業所
7.2	会報（№2）を発行
10.25	会報（№3）を発行
11.25	視察研修を実施（神奈川県）視察地 横浜市消防局鶴見消防署
49.4.1	会員 153 事業所
7.10	会報（№4）を発行
9.27	消防法の一部改正に伴い、講習会を開催
50.1.25	会報（№5）を発行
4.1	会員 152 事業所
6.4	消防法施行規則の一部改正及び通報等について、講習会開催
6.16	会報（№6）を発行
7.18	小山市火災予防規定の公布に伴い、会報（臨時号）を発行
12.17	会報（№7）を発行
51.4.1	会員 161 事業所
6.24	会報（№8）を発行
11.17	視察研修を実施（東京都）視察地 東京消防庁及び同 PR センター
11.29	視察研修を実施（キンカ堂小山店の消防総合訓練及び消防設備等）
12.8	会報（№9）を発行
52.4.1	会員 173 事業所
10.5	現任防火管理者に対する研修会を実施
11.17	昭和 52 年度視察研修を実施（茨城県）視察地 日立市日立製作所
53.4.1	会員 181 事業所
11.8	視察研修を実施（宮城県）視察地　仙台市消防局
54.2.10	会報（№10）を発行
4.1	会員 200 事業所
7.9	会報（№11）を発行
11.8	視察研修を実施（栃木県）視察地　上三川町日産工場
54.12.11	会報（№12）を発行
55.4.1	会員 273 事業所
7.24	会報（№13）を発行
11.17	視察研修を実施（群馬県）視察地　前橋市　東芝電気及びダイハツ車台、桐生市ソフイア
56.1.28	会報（№14）を発行
4.1	会員 264 事業所
5.23	会報（№15）を発行
6.1	添野喜代氏会長職を辞任
7.2	柳勲氏会長に就任
9.21	会報（№16）を発行

11.16	視察研修を実施（千葉県）視察地　市原市　出光石油千葉製油所、東金市　日本ペイント
57.4.1	会員 287 事業所
5.21	会報創立 10 周年記念号（№17）を発行
7.6	会報（№18）を発行
11.16	会報（№19）を発行
11.16	視察研修を実施（神奈川県）川崎臨港消防署、川崎市南部防災センター、東京ガス（株）根岸工場
58.2.25	会報（№20）を発行
4.1	会員 286 事業所
7.10	会報（№21）を発行
11.16	視察研修を実施（栃木県）視察地　東京芝浦電気（株）那須工場、ブリヂストンタイヤ（株）
12.15	会報（№22）を発行
59.3.15	会報（№23）を発行
4.1	会員 298 事業所
7.15	会報（№24）を発行
11.5	視察研修を実施（群馬県）視察地 桐生市平和工業（株)、前橋市サンヨー食品（株）
12.10	会報（№25）を発行
60.3.13	第 1 回現任防火管理者研修会を小山市立文化センターで開催
	演題「防火管理について」講師（財）日本防火協会業務部長　武井正樹先生
3.15	会報（№26）を発行
4.1	会員 327 事業所
	野木町より消防事務を小山市に委託
6.15	会報（№27）を発行
10.29	視察研修を実施（千葉県）視察地　銚子市ヤマサ醤油（株）
12.16	会報（№28）を発行
61.3.18	第 2 回現任防火管理者研修会を市立文化センターで開催
	演題「防火管理の意義について」講師　栃木県消防防災課　増渕博主査
3.31	会報（№29）を発行
4.1	会員 332 事業所
7.15	会報（№30）を発行
8.29	栃木県総合防災訓練参加（小山市）
11.18	視察研修を実施（福島県）視察地　福島県白河市信越半導体（株）
12.10	会報（№31）を発行
62.3.31	会報（№32）を発行
4.1	会員 328 事業所
7.15	会報（№33）を発行
11.9	視察研修を実施（神奈川県）視察地　神奈川県横須賀市東京電力（株）横須賀火力発電所
12.15	会報（№34）を発行
63.3.31	会報（№35）を発行
4.1	会員 327 事業所
7.15	会報（№36）を発行
11.2	視察研修を実施（山形県）視察地　山形県東光の酒蔵・立石寺防災設備
11.24	第 3 回現任防火管理者研修会を市立文化センターで開催
	演題「予防医学」講師　小山市長　船田章
12.15	会報（№37）を発行
平成元 .3.31	会報（№38）を発行

4.1	会員 326 事業所
7.29	会報（№39）、会員名簿を発行
11.16	視察研修を実施（岩手県）視察地　岩手県一関両磐酒造防災設備
12.21	会報（№40）を発行
2.4.1	会員 325 事業所
5.30	会報（№41）を発行
11.6	視察研修を実施（長野県）視察地　長野県埴科郡　新田醸造信州味噌工場
3.1.25	会報（№42）を発行
4.1	会員 332 事業所
7.20	会報（№43）及び会員名簿を作成し会員に配布
9.30	東黒田地内野積み産業廃棄物から出火消火困難（鎮火 11.26）
11.6	視察研修を実施（福島県）視察地　福島県いわき市　いわき市石灰・化石館
4.2.13	会報（№44）を発行
4.1	会員 330 事業所
5.26	協会設立 20 周年記念大会を小山グランドホテルにて開催
	協会設立 20 周年記念大会講演　講師　元自治省消防庁次長・山越芳男先生
8.4	会報（№45）を発行
11.5	視察研修を実施（新潟県）視察地　（株）平和・東京電力
5.2.16	会報（№46）を発行
4.1	会員 331 事業所
8.6	会報（№47）を発行
11.25	視察研修を実施（長野県）視察地　長野県ふるさと水引工芸館・木地師の里
6.2.17	会報（№48）を発行
4.1	会員 335 事業所
8.1	会報（№49）を発行
11.28	視察研修を実施（静岡県）視察地　伊東 20 世紀美術館、稲取棰の寺
7.2.13	会報（№50）を発行
4.1	会員 340 事業所
8.1	会報（№51）を発行
10	40m 級四輪操舵梯子車及び高規格救急車を更新配備
11.21	視察研修を実施（岩手県）視察地　鉄の歴史館
8.2.15	会報（№52）を発行
2.20	現任防火管理者講習会を小山市生涯学習センターにて開催
4.1	会員 353 事業所
7.15	破壊的な下降気流（ダウンバースト）の発生被害
	絹地区東部 13 世帯
7.23	会報（№53）を発行
11.7	視察研修を実施（秋田県）視察地　湯沢市　両関酒造
9.2.14	会報（№54）を発行
2.17	現任防火管理者講習会を小山市生涯学習センターにて開催
4.1	会員 355 事業所
7.15	会報（№55）を発行
11.13	視察研修を実施（静岡県）視察地　小笠市　浜岡原子力発電

12.5	協会設立 25 周年式典・現任防火管理者講習会並びに防火講演会を開催
	小山市立生涯学習センター（ロブレ 6F）にて開催
	現任防火管理者講習会：講師　辻あきら氏
	防火講演会　講師　林家ライス・カレー子氏
10.1.16	栃木県防災功労者知事表彰を受賞
2.16	会報（№56）を発行
4.1	会員 370 事業所
7.15	会報（№57）を発行
11.19	視察研修を実施（山形県）視察地　鶴岡市　致道博物館
11.1.19	現任防火管理者講習会を小山市生涯学習センターにて開催
	講師　黒磯那須地区広域行政事務組合消防本部救急救助課長　後藤浩之氏
2.19	会報（№58）を発行
4.1	会員 381 事業所
7.5	会報（№59）を発行
8.19	東黒田地内野積み産業廃棄物が出火（鎮火 8.22）
11.18	視察研修を実施（長野県）視察地　山口村　馬籠宿
12.1.21	現任防火管理者講習会を小山市生涯学習センターにて開催
	講師　NTT 都市開発株式会社（元東京消防庁予防部長）顧問　有賀政彦氏
2.18	会報（№60）を発行
4.1	会員 372 事業所
7.5	会報（№61）を発行
8.5	小山市全域短時間の集中豪雨被害
	若木町・喜沢地内 90 世帯
9.24	小山市全域短時間の集中豪雨により、若木町・喜沢・羽川地内 73 世帯に被害
11.21	視察研修を実施（長野県）視察地　松本市　司法博物館
13.1.19	現任防火管理者講習会を栃木県立県南体育館にて開催
	講師　小山市消防署館野救急係長他救急隊員 9 名　講習内容　普通救命講習会
2.20	会報（№62）を発行
4.1	会員 363 事業所
7.11	会報（№63）を発行
7.9	土塔地内危険物漏洩により、西仁連川に流出
9.2	栃木県総合防災訓練参加（小山市）
11.8	視察研修を実施（新潟県）視察地　佐渡市　佐渡奉行所、佐渡歴史伝説館
14.1.30	現任防火管理者講習会を栃木県消防防災館で開催
	講習内容　地震・煙・大雨等の疑似体験、消火器取扱訓練、防災映画研修
2.20	会報（№64）を発行
4.1	会員 363 事業所
5.21	協会設立 30 周年記念大会を小山グランドホテルにて開催
	記念講演　講師　民俗学者・尾島利雄先生
6.26	会報（協会設立 30 周年記念号）を発行
7.9	小山市全域台風 6 号の接近に伴う被害
	中里地区 32 世帯
11.27	視察研修を実施（山形県）視察地　山形市　山形県郷土館、県会議事堂
15.2.24	会報（№65）を発行

3.14	現任防火管理者講習会を栃木県立県南体育館にて開催
	講師 小山市消防本部予防課長　山崎仁氏
4.1	会員 360 事業所
7.23	会報（№66）を発行
11.27	視察研修を実施（静岡県）視察地　伊豆町　成川美術館
16.2.6	現任防火管理者講習会を東京都三鷹市　消防研究所にて開催
2.25	会報（№67）を発行
4.1	会員 351 事業所
	緊急消防援助隊の登録
7.28	会報（№68）を発行
11.25	視察研修を実施（宮城県）視察地　宮城の明治村登米
17.2.4	現任防火管理者講習会を栃木県立県南体育館にて開催
	講師　小山市消防署　救急係長他救急隊員　講習内容　普通救命講習会
2.22	会報（№69）を発行
4.1	会員 344 事業所
7.25	会報（№70）を発行
11.25	視察研修を実施（富山県）視察地 南砺市 瑞泉寺 井波彫刻総合会館
18.2.15	会報（№71）を発行
2.24	現任防火管理者講習会を栃木県消防防災航空隊にて開催
4.1	会員 334 事業所
5.20	小山市全域短時間の集中豪雨被害
	駅東通り・城山町地内 28 世帯
7.5	平成 18 年度安全功労者消防庁長官表彰を受賞
7.25	会報（№72）を発行
11.21	視察研修を実施（長野県）視察地 松本市 松本城
19.2.2	現任防火管理者講習会を（株）菊廣和田屋新館にて開催
2.16	会報（№73）を発行
4.1	会員 328 事業所
6.21	会報（№74）を発行
11.15	視察研修を実施（山形県）視察地　米沢市　伝国の社
12.13	会報（№75）を発行
20.2.1	自治体消防 60 周年記念　防火講演会
	現任防火管理者講習会をベルジューネ小山にて開催
4.1	会員 325 事業所
7.28	会報（№76）を発行
11.13	視察研修を実施（長野県）視察地　飯田市　下伊那郡阿智村
21.2.6	現任防火管理者講習会を道の駅思川「小山評定館」にて開催
2.24	会報（№77）を発行
4.1	会員 315 事業所
7.30	平成 21 年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞
8.20	会報（№78）を発行
10.15	視察研修を実施（新潟県）視察地　長岡市・魚沼市・南魚沼市
22.2.12	現任防火管理者講習会を小山グランドホテルにて開催
3.15	会報（№79）を発行
4.1	会員 304 事業所

7.29	会報（№80）を発行
10.28	視察研修を実施（岩手県）視察地　岩手県花巻市・奥州市・平泉町
23.1.28	現任防火管理者講習会を栃木県日光市（日光東照宮）で開催
2.22	会報（№81）を発行
3.11	東北地方太平洋沖地震が発生
	小山市全域で 1,300 棟の破損、4 名の負傷者発生
4.1	会員 294 事業所
7.29	会報（№82）を発行
9.21	小山市全域台風 15 号の影響による豊穂川越水被害
	大行寺地内 20 世帯
10.21	視察研修を実施（新潟県）視察地　佐渡市　佐渡金山
24.2.15	現任防火管理者講習会を小山市文化センター小ホールにて開催
	普通救命講習会
3.6	会報（№83）を発行
4.1	会員 291 事業所
5.11	協会設立 40 周年記念大会を小山グランドホテルにて開催
	記念講演　講師　元東京消防庁 佐藤康雄先生
7.25	会報（№84）を発行
10.5	視察研修を実施（東北地方）視察地　東日本大震災被災地
25.1.9	会報（協会設立 40 周年記念号）を発行
2.5	現任防火管理者講習会を小山市中央市民会館第一研修室にて開催
3.6	会報（№85）を発行
4.1	会員 287 事業所
7.20	会報（№86）を発行
10.11	視察研修を実施（岐阜県）視察地　飛騨高山・白川郷
26.2.13	現任防火管理者講習会を消防庁舎で開催
2.14	小山市全域大雪により市内各地で被害発生
	11 名負傷、床下浸水 1 棟、倒木、農作物被害
2.21	会報（№87）を発行
4.1	会員 287 事業所
5.16	鈴木隆作氏会長に就任
9.10	会報（№88）を発行
11.14	視察研修を実施（福島県）視察地　会津若松市・いわき市
27.1.22	現任防火管理者講習会を小山市消防本部大会議室にて開催
3.17	会報（№89）を発行
4.1	会員 280 事業所
5.18	会報（№90）を発行
9.9	平成 27 年 9 月関東・東北豪雨が発生、主要河川増水
	市内各地で内水により、住宅 1,525 棟の床上・床下浸水被害発生
10.23	視察研修を実施（静岡県）視察地　静岡市
28.1.22	現任防火管理者講習会（埼玉県）能美防災株式会社妻沼工場
2.15	会報（№91）を発行
3	絹分遣所、開所（福良 1105-1）職員数 13 名配置
4.1	会員 280 事業所
8.22	台風 9 号により、横倉新田地区を中心に住宅 26 棟の床下浸水被害が発生

8.25	会報（№92）を発行
11.11	視察研修を実施（新潟県）視察地　村上市
29.1.26	現任防火管理者講習会を小山市消防本部にて開催
3.23	会報（№93）を発行
4.1	会員277事業所
7.18	会報（№94）を発行
10.22	小山市全域台風21号の影響により、中里・押切地内で杣井木川が増水
	4棟の床下浸水被害が発生
10.27	視察研修を実施（長野県）
30.1.12	現任防火管理者講習会を開催
3.5	会報（№95）を発行
4.1	会員278事業所
6.15	会報（№96）を発行
10.26	視察研修を実施（茨城県）視察地　茨城県原子力オフサイトセンター
12.18	小山市消防発足70周年を記念して、消防本部に査察広報車を寄贈
	小山市長より感謝状を受領
31.1.18	現任防火管理者講習会を開催
2.25	会報（№97）を発行
4.1	会員276事業所
令和元.8.6	会報（№98）を発行
10.12	小山市全域令和元年東日本台風の影響により水害が発生
	合計546棟の床上・床下浸水被害
2.2.17	会報（№99）を発行
4.1	会員262事業所
3.4.1	会員274事業所
6.9	会報（№100）を発行
4.2.10	会報（№101）を発行
4.4.1	会員271事業所
10.20	会報（№102）を発行
11.11	協会設立50周年記念大会を小山グランドホテルにて開催
	記念講演　講師　森総合研究所　代表　森　健　先生

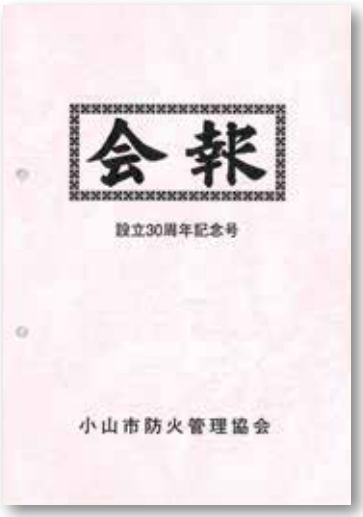
会報発行

昭和 47 年 7 月　臨時号

昭和 47 年 11 月　創刊号

昭和 57 年 5 月　10 周年記念号

平成 4 年 8 月　20 周年記念号



平成 14 年 6 月　30 周年記念号

平成 24 年 7 月　40 周年記念号

平成 27 年 5 月　90 号

令和 3 年 6 月　100 号

防火管理協会設立当時を知る方へのインタビュー

小山市消防本部　元消防長　**山崎　仁　様**

事務局：小山市防火管理協会設立50周年を迎えるにあたり、設立当初から事務局として携わられていた山崎様にお話を伺いました。

山崎様：この度は小山市防火管理協会設立50周年、誠におめでとうございます。私は昭和42年に消防本部に入庁し、予防課係員として協会の発足に立ち会いました。その後、平成14年には予防課長として協会設立30周年記念事業に携わりました。

事務局：協会設立について当時のことにつきましてお聞かせください。

山崎様：当時は日本全体として経済が成長しており、小山でも大規模な建物がどんどん建つような時代でした。それに伴って大規模な火災や事故も起きていました。火災予防のためには、消防が各事業所を回り防火指導や啓発を行うより、多くの事業所に集まっていただき、指導、啓発ができる勉強会の場所が欲しかった。そんな思いが防火管理協会の発足に繋がりました。

事務局：どのような勉強会を行いましたか。また協会はどのように発展したのですか。

山崎様：講習会や会報を通して、消防関係法令を学びました。また、県内外、国内外を問わず、火災や事故事例の情報を集めて検証し、危険性と安全対策に関する講義を行いました。一方、視察研修や懇親会を通して会員相互の融和、事業所と消防の親睦も深まり、より一層協会全体が団結し、安全意識の向上、防火防災への意識が深まったのだと思います。

事務局：山崎様が消防長に就任された平成18年度に、防火管理協会は安全功労者消防庁長官表彰を受賞されました。当時の受賞のことについてお聞かせください。

山崎様：嬉しい出来事で記憶に残っています。防火ポスターコンクールや現任防火管理者講習会の開催、女性防火クラブ連合会及び幼年消防クラブへの活動支援、さらに住宅用火災警報器の設置促進の協力などの事業を展開し、火災予防活動、火災予防思想の普及に大きく貢献してきた実績が高く評価されたのだと思います。

事務局：改めまして今年度、小山市防火管理協会が設立50周年記念を迎えます。お気持ちをお聞かせ下さい。

山崎様：火災予防を基本理念として知識技術の習得に励み、半世紀という節目を迎えられましたが、今後ますます地域防災の要として発展していただきたいと思います。

会　員　名　簿

会　員　名　簿

(1) 項　　令和４年４月１日

番号	事　業　所　名	備考
1	㈲小山祭典具	
2	須賀神社	
3	セレモニーたかはし外城ホール	
4	㈱プリオウエディングスＴ＆Ｓ　メゾンエルミタージュ	

(2) 項

番号	事　業　所　名	備考
5	進優商事㈲小山ゴールドレーン	
6	㈲レイト	

(3) 項

番号	事　業　所　名	備考
7	㈲割烹たる池	
8	㈲思水荘	
9	㈲割烹櫻寿司本店	

(4) 項

番号	事　業　所　名	備考
10	アイアグリ㈱小山営業所　しんしん小山店	
11	イオンリテール㈱　イオンモール小山	
12	宇都宮ステーション開発㈱　ＶＡＬ小山店	
13	㈱カワチ薬品小山東店	
14	銀星薬局	
15	㈱コジマ小山店	
16	サンキ小山店	
17	スーパービバホーム　小山店	
18	㈱つかひろ	
19	㈱東京インテリア家具小山店	
20	㈱とりせん小山東店	
21	㈲ファッションシマダ	
22	㈱フジタコーポレーション　マルシェ小山店	
23	㈱マルエツ小山店	
24	ヤオハン城東店	
25	㈱ヤブシタ	
26	㈱結城ショッピングセンター　スーパーフレッシュ小山店	
27	㈱夢翔　スーパーオートバックス小山	
28	㈱ヨークベニマル　小山ゆうえんち小山店	
29	ジェームス小山神山店	
30	㈱とりせん羽川店	
31	㈱とりせん美しが丘店	
32	㈱とりせん小山土塔店	
33	㈱カインズ　カインズ小山店	
34	㈲あおきスポーツ	
35	ジョイホン小山駅前店	
36	岩﨑製綿所	

(5) 項

番号	事　業　所　名	備考
37	エスアール観光㈱　ホテル・サン・ロイヤル小山	
38	小山観光開発㈱　小山グランドホテル	
39	小山パレスホテル	
40	国際第一ホテル㈱	

(6) 項

番号	事　業　所　名	備考
41	(医) 朝日会　朝日病院	
42	(医) みやび　樹レディスクリニック	
43	(医) 桃李会　小山クリニック	
44	(医) 敬愛会　小山厚生病院	
45	(医) 共愛会　小山中央医院	
46	(医) 加藤クリニック	
47	(医) 信誠会　苅部太陽の家	
48	(医) 光風会　光南病院	
49	斎藤眼科医院	
50	藤原クリニック	
51	(医) 安慈会　みなみ整形外科	
52	(医) 博愛会　杉村病院	
53	すずき整形外科	
54	角田歯科医院	
55	医療法人顕仁会　福田医院	
56	(医) 社団章仁会　船田内科外科医院	
57	(医) 社団星野会　星野病院	
58	社会福祉法人　小山清風会　ケアハウスグレープホーム	
59	社会福祉法人　小山清風会　特別養護老人ホームしょうし苑	
60	地域密着型総合施設　風わらう舎	
61	特別養護老人ホームきぬの里	
62	社会福祉法人厚生会　特別養護老人ホーム穂の香苑	
63	医療法人さくら会	
64	社会福祉法人　洗心会本部	
65	社会福祉法人　紫雲会	
66	知的障害者通所授産施設一桃舎	
67	介護老人保健施設つむぎの郷	
68	デイサービスサンテーヌ	
69	社会福祉法人延寿会　特別養護老人ホーム虹の舎	
70	医療法人社団友志会　介護老人保健施設　ひまわり荘	
71	特別養護老人ホームひらわの郷	
72	特別養護老人ホーム富士見荘	
73	特別養護老人ホーム栗林荘	
74	㈻伊沢教育会　認定こども園　静林幼稚園	
75	小山西保育園	
76	㈻小山西学園　認定とまとこども園	
77	㈻小山学園　認定こども園小山幼稚園	
78	㈻小野瀬学園楠エンゼル幼稚園	
79	㈻栗の実学園　認定こども園栗の実	
80	認定こども園早蕨幼稚園	
81	社会福祉法人城山福祉会　つくし保育園	
82	㈻延島学園　認定こども園のぶしま幼稚園	
83	白鷗大学はくおう幼稚園	
84	学校法人鈴木学園	
85	㈻ひまわり学園ひまわり幼稚園	
86	㈻間々田幼稚園	
87	㈻みのり幼稚園	
88	地方独立行政法人　新小山市民病院	
89	㈱太陽	

(7) 項

番号	事　業　所　名	備考
90	㈱小山自動車教習所	
91	小山中央自動車学校	
92	㈲間々田自動車教習所	

(9) 項

番号	事　業　所　名	備考
93	小山思川温泉㈱小山温泉	
94	幸の湯	
95	小山やすらぎの湯	

(11) 項

番号	事　業　所　名	備考
96	天理教都賀大教会	
97	立正佼成会小山教会	

(12) 項

番号	事　業　所　名	備考
98	アイザックパッケージ事業本部　野木工場	
99	㈱アウトバーンモーター	
100	旭鋼管工業㈱野木工場	
101	㈱廣澤精機製作所小山工場	
102	栄研化学㈱野木事業所	
103	江東産業㈱	
104	奥澤産業㈱	
105	㈱小山ＬＩＸＩＬ製作所	
106	五十鈴関東㈱	
107	栃木いすゞ自動車㈱小山（営）	
108	小山化学㈱	
109	㈱小山工作所	
110	㈱オリジン間々田工場	
111	関東スチレン㈱小山工場	
112	関東農機㈱	
113	SWS 東日本㈱小山工場	
114	北日本ガス㈱	
115	協栄産業㈱小山工場	
116	協栄流通㈱　宅配物流部桶川・北関東営業所	
117	キング工業㈱	
118	㈱黒坂鍍金工業所	
119	小平産業㈱	
120	寿工業㈱	
121	㈱小松製作所小山工場	
122	㈱小松電業所小山工場	
123	コロラド㈱小山工場	
124	㈱蛸屋	
125	坂本香料㈱野木工場	
126	㈱佐山製作所栃木工場	
127	㈱三英社製作所	
128	㈱サンデリカ小山事業所	
129	㈱ジアースコーポレーション	
130	アルテミラ㈱小山工場	
131	昭和電工㈱小山事業所	
132	㈱新開トランスポートシステム	
133	信庄産業㈱	
134	㈱シンデン	
135	㈱ＣＳＩジャパン	
136	杉田酒造㈱	
137	ゼブラ㈱野木工場	
138	セントラル石油瓦斯㈱栃木支店	
139	大進鉄工㈱栃木工場	
140	大陽日酸㈱小山事業所	
141	㈱東光高岳	

142	中央リネンサプライ㈱小山工場	
143	㈱ツルオカ	
144	ティ・エス・コーポレーション㈱	
145	銅市金属工業㈱	
146	東京鋼鐵㈱本社・小山工場	
147	東京鐵鋼㈱本社工場	
148	㈱トキタ・ａｃ	
149	トーアテック㈱	
150	トーホー加工㈱小山工場	
151	トーメイダイヤ㈱	
152	㈱トーヨーコーポレーション　小山センター	
153	東邦特殊パルプ㈱小山工場	
154	栃木県中央食販㈱生産事業部	
155	栃木スバル自動車㈱小山店	
156	栃木トヨタ自動車㈱粟宮店	
157	栃木日産自動車販売㈱小山営業所	
158	栃木日信㈱	
159	栃木日野自動車㈱小山営業所	
160	㈱デンソーテン小山製作所	
161	よつ葉生活協同組合	
162	ティーエヌジー㈱	
163	㈱巴コーポレーション小山工場	
164	㈱中村機器	
165	日鉄鉱業㈱野木工場	
166	日鉄建材㈱野木製造所	
167	日東電気㈱小山工場	
168	㈱ＵＡＣＪ製箔野木工場	
169	日本ピストンリング㈱栃木工場	
170	林精鋼㈱栃木野木工場	
171	日の本穀粉㈱栃木工場	
172	フジメタルリサイクル㈱	
173	富士通㈱小山工場	
174	㈱不二家野木工場	
175	古河産機システムズ㈱小山工場	
176	㈱ＵＡＣＪ押出加工小山	
177	美濃工業栃木㈱	
178	文化シヤッター㈱小山工場	
179	㈱丸信化工	
180	無臭元工業㈱小山工場	
181	㈱ムトウユニパック野木工場	
182	メルテック㈱	
183	森永製菓㈱小山工場	
184	㈱ヤナセ栃木小山営業所	
185	ユニプレス㈱栃木工場小山	
186	㈱ヨロズ栃木	
187	レンゴー㈱小山工場	
188	日東工業㈱栃木野木工場	
189	㈱レニアス　小山工場	
190	㈱ラバーテック	
191	㈲大幸製作所犬塚工場	
192	東拓工業株式會社　関東おやま工場	

(14) 項

番号	事　業　所　名	備考
193	栃木塩業㈱	
194	㈱ナリカ小山商品センター	
195	トーセロ・ロジスティクス㈱	

(15) 項

番号	事　業　所　名	備考
196	日発運輸㈱　栃木物流センター	
197	㈲青木電機	
198	足利小山信用金庫小山営業部	
199	足利小山信用金庫間々田支店	
200	㈱足利銀行小山支店	
201	荒井商事㈱小山会場	
202	石崎工業㈱	
203	上田㈱小山営業所	
204	㈱小山カントリー倶楽部	
205	小山農業協同組合本店	
206	小山農業協同組合大谷支店	
207	小山農業協同組合桑支店	
208	小山農業協同組合美田支店	
209	小山農業協同組合野木支店	
210	小山農業協同組合間々田支店	
211	小山商工会議所	
212	ＯＢＳアシュア㈱	
213	㈱カワチ薬品	
214	関東自動車㈱県南営業所	
215	関東ツアーサービス㈱　県南旅行センター	
216	カントー防災設備㈱	
217	国分関信越㈱	
218	関東実行センター	
219	共立興産㈱小山営業所	
220	㈱群馬銀行小山支店	
221	KDDIエンジニアリング㈱	
222	㈱常陽銀行小山支店	
223	㈱親和	
224	㈲鈴商防災設備	
225	㈱タカキタ関東営業所	
226	中央労働金庫小山支店	
227	㈱筑波銀行小山支店	
228	Ｔ・Ｙエンジニアリング	
229	鉄道情報システム㈱	
230	トーテツメンテナンス㈱	
231	㈱栃木銀行小山支店	
232	㈱栃木銀行間々田支店	
233	栃木県南トラック協同組合	
234	とちぎコープ生活協同組合　小山センター	
235	栃木信用金庫思川支店	
236	栃南通運㈱	
237	㈱トリウミ	
238	㈱永井設備工業	
239	ニップンスポーツ㈱　イーグルスポーツプラザ小山	
240	日本たばこ産業㈱　葉たばこ研究所	
241	㈱野崎健蔵商店	
242	東日本電気エンジニアリング㈱　ＴＥＭＳ技術学園	
243	㈱古川看板塗装	
244	古河ライフサービス㈱小山事業所	
245	㈱三井住友銀行小山支店	
246	明和証券㈱小山支店	
247	㈾渡辺商店	
248	㈱足利銀行小山東支店	
249	㈱ダイサン小山	
250	松岡塗料㈱栃木営業所	
251	㈱進駸堂販売	

252	㈲ミネ不動産	
253	㈱日進ホーム	
254	鹿村法律事務所	
255	㈲エフエスシー	
256	㈱マックトレス	
257	㈱サイトウ	

(16) 項

番号	事　業　所　名	備考
258	小山都市開発㈱（ロブレ）	
259	㈲銀星会館シネマロブレ５	
260	㈱ザイマックスキューブ　ハーヴェストウォーク	
261	㈲しまだや	
262	㈱田中屋	
263	㈱ティビィシィ・スキャット	
264	栃南商事㈱	
265	ホテルニューカシワ	
266	阿久津産業㈱	
267	小山市役所	

※会員名簿区分は、各事業所を消防法施行令別表第１に掲げる用途別に掲載したものです。